

## 令和2年度第5回地方独立行政法人京都市立病院機構理事会 議事録（要旨）

- 日 時： 令和2年10月27日（火） 午前10時30分から12時00分まで
- 場 所： 市立病院北館7階ホール1
- 出席者： 理事長 黒田 啓史  
理 事 森 一樹，清水 恒広，半場 江利子，松本 重雄，位高 光司，  
能見 伸八郎，山本 みどり，白須 正  
監 事 長谷川 佐喜男，中島 俊則  
事務局 折戸経営企画局次長，長谷川担当部長，大島京北病院統括事務長，  
濱口経営企画課長

### 1 開会

### 2 議事・報告等

#### (1) 業務方法書の改正について

資料1に基づき，折戸経営企画局次長から説明  
議案のとおり承認された。

- 新たに加入する役員賠償責任保険は，非常勤理事も対象となることで良いか。  
→ 非常勤理事はもちろん，監事も保険適用の対象となる。
- 今回，法及び条例で定められた免責の考え方は，非常勤理事・監事に対しても同様と考えて良いか。  
→ 同じである。年間の報酬額に，今回，責任の度合いに応じて定められた倍率を乗じた額までしか，法人に対して責任を負わないことになる。

#### (2) 月次収支（8月まで）報告

資料2に基づき，折戸経営企画局次長から説明

- 8月の実績が大きく落ち込んでいるが，特別な理由はあるのか。
- 8月の実績としては，市立病院の落ち込みが大きく，京北病院は小さいという理解で良いか。  
→ 市立病院においては，院内クラスターの発生を受け，8月10日まで約4週間，新規の外来・入院の受入をストップした影響が大きい。一度落ち込んだ実績はなかなか元には戻らないため，9月の実績は7月より低い数値となっている。一方，京北病院はコロナの影響が少なく，クラスターも発生していないため，市立病院よりも落ち込みは小さくなっている。
- コロナの影響で資金繰りに苦労されていることと思うが，京都市からの支援はないのか。  
→ 運営費負担金は計画どおり収入しているが，今後も資金不足状況が続くことが想定される。  
→ 資金繰りについては，今後，国の支援メニューである特別減収対策企業債の活用を考えている。
- コロナの収束が見えず，年度の純損失も積み上がる中，借入りに頼るだけでなく，抜本的にどうしていくかを考えていく必要がある。

#### (3) 収入状況月次（9月分）報告

資料3に基づき、折戸経営企画局次長から説明

- 8月の実績は落ち込んだが、9月は回復傾向にある。この調子でじっくりと地道な取組をお願いする。

#### (4) 訴訟案件について

資料4に基づき、長谷川担当部長から説明

### 3 閉会